

救急活動の流れを取材してみました

通報から救急車が到着するまでの所要時間は平均で9分。救急隊員がどのような活動を行っているか、実際の場面を想定して再現してもらいました。

1. 傷病者発生



どうされましたか!?
大丈夫ですか!?

2. 119番通報受け付け



119番八千代消防です。火事ですか、救急ですか



救急です。女性が倒れています。救急車をお願いします!

119番通報を受信すると同時に指令センターのシステムが稼働し、瞬時に現場の位置を画面に表示します。職員が傷病者の状態や通報者の氏名など必要な情報を聞き出します。

3. 救急車の出動

通報を受信すると現場に最も近い救急車を選定し、出動させます。救急隊は場所や傷病者の状況について、必要に応じて本部と無線で確認しながら現場に向かいます。

4. 救急隊到着

救急車のサイレンが近づいたら、家から出て誘導してください。



5. 傷病者の観察と救護

隊員が傷病者の状況を確認するため、バイタル(意識状態、呼吸、脈拍、血圧、体温)などを測定したり、応急処置を行ったりします。



救急車の内部を公開!

八千代市消防本部の救急車は6台すべて高規格救急車です。車内には、「応急処置などに必要な資器材」「通信・救出等に必要な資器材」など約100種類の資器材が搭載されています。

吸引器…傷病者の口腔内または鼻腔内の嘔吐物や血液などを吸引する

酸素吸引用マスク

流量計付き酸素吸入装置…傷病者への酸素投与、高濃度酸素での人工呼吸や補助呼吸を行う

ベッドサイドモニター…傷病者の心電図や血圧、動脈血酸素飽和度などを表示



酸素ボンベ

自動式人工呼吸器…呼吸回数や1回の換気量を設定すれば、自動的に人工呼吸を行える

AED(自動体外式除細動器)…傷病者の心電図波形をモニターし、心室細動を機械的に解析させ電気ショックを与えて正常な動きに戻す

メインストレッチャー…車輪付きの担架。寝台部分は傷病者の症状や体位に合わせて調整可能

7. 病院へ搬送開始

病院への搬送中もバイタル測定を続け、心肺停止状態時にはAEDによる心肺蘇生法を行うなどして病院まで搬送します。



8. 病院到着/帰署

病院到着後、医師・看護師に傷病者について報告・引き継ぎを行います。状況次第では転送の可能性もあるので、しばらく待機します。傷病者を搬送し、医師から診断名と重症度を記入した用紙を受け取ると、速やかに消防署に戻ります。その後は報告書を作成し、次の指令に対応できるよう準備して待機します。

救急車は適切な利用が大切

26年中の救急車の出動件数は8,652件。実際に搬送された人は7,679人でいずれも過去最高記録を更新したそうです。

「交通手段がない」「どこの病院に行けばよいかわからない」「救急車は無料だから」「便利だから」などの理由で利用すると、本当に必要としている人が救急車を利用できず、救える命も救えなくなってしまいます。

救急車の数には限りがあります。重症の人が利用できるよう、私たち一人ひとりが本当に必要かどうかを正しく判断することが大切だとわかりました。



ご協力を
お願いします!

6. 病院の選定

傷病者の年齢や性別・状態に応じて、救急隊長の判断により病院を選定し、受け入れ可能かどうかを電話で確認します。

